# 今、いちばん気になる統計は?

## 日銀版コアコアCPI

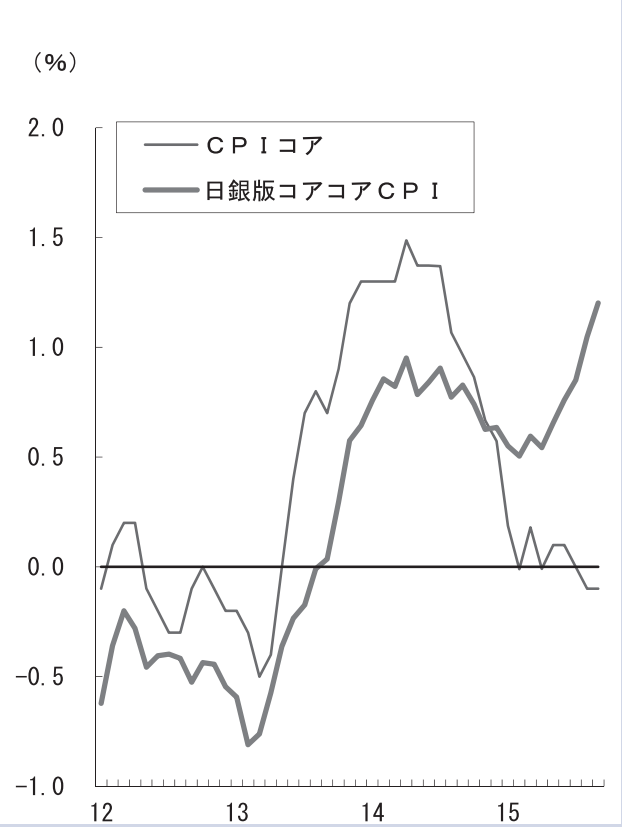
CPIが前年比でマイナス転化するなか、日銀がこのところ強調しているのが、生鮮食品とエネルギーを除いたCPI(日銀版コアコアCPI)の改善だ。これで見ると確かに足元の上昇率は+1%を超えており、日銀はこれをもって「物価の基調は着実に改善」と判断しているようだ。

だが、この状況が長く続くとは限らない。日銀版コアコアCPIを押し上げている大きな要因が、円安による輸入価格の上昇であるためだ。食料品や耐久消費財、身の回り品などの値上がりが最近目立つが、その原因は軒並みコスト増が原因とみられる。

14年10月末のサプライズ緩和によって円安が進んでから既に1年以上が経過し、前年比で見た円安効果は剥落しつつある。いずれ円安による物価押し上げ圧力も弱まるだろう。そうなれば、日銀版コアコアCPIも鈍化に向かう可能性がある。そのときの日銀の判断に注目が集まる。

(経済調査部　新家 義貴)

**資料**　全国消費者物価指数(前年比、消費税要因を除く)




(出所)総務省統計局「消費者物価指数」より作成

## 編集後記

「百聞は一見にしかず」、人の話しを色々聞くより何事も自分の目で見て感じ確かめることが大切だという教えだ。話しを聞いて事前に色々思い描いていたことが実際に自分で見て経験すると腹のうちにストンと収まることは多くの人が経験済みだろう。

ただ、そうした場合によくやってしまうのは自分の見たことを無条件に一般化してしまうことだ。自分が見たことは対象の極々一部分でしかないのにあたかも全体を理解したつもりになる。これは正しい姿がよく分からない「経済」を見ていくときに起こりがちな問題でもある。昔の人はえらい。自分の目で見ることが大切と説く一方で「木を見て森を見ず」、全体をみることの大切さも同時に説いている。

経済を見るとき「木」である消費の現場や個別企業の生産投資行動を実際に見ることも大切だが何より重要なのは「森」を見ることだと思っている。そのために各種統計が整備され、それを詳細に分析することで正しい全体像に迫るのがエコノミストの仕事だ。最近その統計が森を十分カバーできていないのではないかと疑問を持つ人が増えている。早急な見直しで信頼性を取戻す必要があろう。　(H.S)

○第一生命経済研レポートに関するご意見・ご要望は、keizai@dlri.dai-ichi-life.co.jpまでお寄せ下さい。
○本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。